佐治地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２４年１０月２４日（水）　１９：００～２０：３５
２　会　場　佐治町中央公民館
３　出席者　地元出席者　　３０名
市側出席者　　２０名
竹内市長、深澤副市長、木下教育長、羽場総務部長、松下企画推進部長、井上福祉保健部長、山根農林水産部長、藤井都市整備部次長、松ノ谷教育委員会事務局次長、富山危機管理課参事、西尾中山間地域振興課参事、尾室企画推進部次長
＜佐治町総合支所＞奥田支所長（司会）、梶副支所長、竹本市民福祉課長、川西産業建設課長、西尾地域振興課主査
＜事務局＞安本協働推進課長、谷村協働推進課主任、岡田協働推進課主任

４　「地域防災計画の見直し」について
スクリーンに基づき説明（危機管理課参事）

５「協働のまちづくり」についての報告
（加瀬木ふれあい会会長）
きょうは、加瀬木ふれあい会がいままで行ってきた活動、それからいま、取り組んでいます活動等について報告をさせていただきます。
私たちの加瀬木地区は、市長さんをはじめ皆さん、暗い中を通ってこられたと思いますから、どういう地形かよくわからなかったかもしれませんが、用瀬から岡山県境に向けて国道４８２号線が西に走っていまして、それに沿うように佐治川が西から東へと流れています。このあたりが加瀬木地区で、いま我々がいるところは総合支所ですが、すぐ手前の部落ということになります。南側と北側は山がすぐ迫っていて、まさに佐治谷を象徴するような地域で、この道路と佐治川に沿って寄り添うように集落が形成されています。

加瀬木ログハウス（有志10名で建築）

現在、世帯数が６７戸、人口が２４０人あまりということで、ほとんど皆さん兼業農家です。専業で農家をやっているかたは、いまは少ないかもしれません。南側のこの山を通称、加瀬木山といいます。戦後、斜面に植林された杉がだんだん大きくなりまして、杉の成長に反比例して佐治や加瀬木地区の日照がだんだん短くなってく

るので、杉を何とかしなければいけないのではないかと、間伐のために作業道をつくることになり、補助金をいただいて数年前から作業道に取り組んでいます。森林組合さんにお世話になって、作業道の計画の話が進んでいるところです。

これは、南側の斜面の中間あたりですが、集落から５、６分のところにある、ふれあい会を結成する前に有志１０名で建てたログハウスです。アストロパークは皆さんも行かれたことがあるかもしれませんが、それを眺められるような景色です。我々もそこまで思っていなかったのですが、ここから眺めるとなかなかのものだなということで、雪景色もなかなか結構なものです。隣に見えます小さいのが５、６年前に建てたヒノキの風呂で、このようにちらっと窓から見えますが、これも建ってみたらなかなか捨てた景色ではないなと、個人的には満足しています。

桧の風呂

加瀬木のふれあい会は、実際には２２年からですから、そんなに古い組織ではありませんで、３年目に入ったところです。前身の組織も平成１８年から２０年にかけて３年間、鳥取市自立支援交付金事業という補助制度を利用して、集落全体でさまざまな取り組みをやらせていただきました。総額では１，３００万円あまりの事業になったかと思いますが、神社の改修とか、いろんな事業に使わせていただいて、それがいまのふれあい会の母体といいますか、それを受け継ぐ形でふれあい会を発足させたという流れになっています。鳥取市さんの補助金は加瀬木ふれあい会としては非常にありがたい補助金だということで、今年も、金額的にはそんなに多くはありませんが、中山間地域創出モデル事業というのを活用させてもらって、活動しています。

鳥取市の面影地区とまちとむらの交流ということで加瀬木に来ていただきまして、先ほどのログハウスの会場でおもてなしとか一緒に料理をつくったり、昼食メニューを一緒にこしらえたりして、そういう事業を展開していて、ことしで６回目を数えましたでしょうか。ウドは畑で、自然のものではないのですが、面影から来られた人にとってこういう機会はあまりないので大変に好評でした。地元に染色家がおられまして、その人の指導で即席の絞り染めのコーナーも設けて楽しんでいただきました。６０名近くの参加だったと思います。

これとは逆に、我々が加瀬木地区から鳥取市の面影地区の公民館にも出向きます。毎年予定していて、ことしは１０月２７日です。そこに我々のところでつくった農産品とか加工品の展示コーナーを設けていただいて、即売コーナーということで、大変好評いただいています。ここ数年は完売の盛況ですが、ことしも販売させていただくことになっています。ことしの１１月４日に行われる予定ですが、公民館でまちとむらの交流ということで我々が出向きまして、ゲームとかいろいろ行います。大変温かく迎えていただいて、秋には我々が面影に出向いて交流を深めるという活動も、６回ぐらいを数えることになりました。

そこの高台にあります地元の佐治小学校で、毎年地域の運動会を、これは加瀬木地域だけの運動会ですが、毎年６月ごろに行っています。いろんなゲームをやったりして、昼食は皆さんで一緒のものを、婦人部のかたに骨を折っていただいてお昼をつくっていただいて食べるという恒例のならわしになっています。

今年から始めた事業ですが、ふれあい農園と銘打ちまして、休耕地を貸していただいて、はじめはあまり欲張ったらいけないということで、１坪ぐらいを一区画にして貸し出すと。鳥取市近郊には便利なところがありますから、佐治の奥まで借りに来るだろうかという話がありました。先ほどのログハウスを休憩地に利用できるということを売りにして売り込んだのですが、準備不足もありまして、１６区画ほどつくったのですが２、３区画残ってしまいました。実態は会員がほとんどメンバーになったというところです。グリーンツーリズム等でもおなじみの顔ですが、学生人材バンクの女性のかたが応援に駆けつけてくれました。加瀬木ゴボウといって地元では結構定評がありますが、まだビッグにはなっていませんで、これを今度、面影の方に持って出まして、２７日に売る計画にしています。

地元で毎年お盆に行っている加瀬木の納涼祭は、帰省をされた皆さんも加わりまして、カラオケとか盛り上がるイベントになっています。ことしから診療所の内科のお医者さんも、家族で参加をしていただいて一緒に過ごしました。この先生にも先ほどのふれあい農園の区画のオーナーになっていただきました。順調に大根は成長しているようです。屋台が出て、子どもにも好評をいただきました。

以上のような取り組みをずっとやらせていただいています。実際のところは会員数でいきますと６７世帯中６４戸ぐらい入っていただいて、人数も１６４名ぐらいを数えているのですが、実際にイベントに参加する人数とのギャップというのがありまして、今後このような取り組みを展開する上で、頭の痛いところです。

地域の我々が気づかないことが、これはいいのではないかと、この間も全国のツーリズムの会合に出ましたらそういう意見を外から入ってきたかたに逆に言われたりしまして、今後は地元に眠っている素材とか、そういうものを見直すような事業も必要なのではなかろうかと、仲間とも話し合っているところです。

先ほど申し上げましたが、ことしは鳥取市の中山間地域創出モデル事業というのを、そんなに大きな額ではないですが、でも我々にとっては大変ありがたい補助制度でありまして、こういうのを活用させていただいて、ふれあい農園等々にいま、取り組んでいるところです。小さな村ですので一遍にはなかなかできませんが、こつこつやって、そのうちみんなに輪が広がっていくのではないかというところで、七転八倒、暗中模索というのが実際のところかと思います。

（竹内市長）

大変すばらしい取り組みだと思います。ひとつは交流というのが常に活性化のキーワードになるわけで、やはりまちとむらの交流事業、これは鳥取市の中でいろんな地域間で行われています。私も呼ばれて出るのがあるのですが、本当に両方の地域にとってプラスになるような、ここでいえば面影地区と加瀬木の地域の皆さんが交流をされているということですので、面影の地域もかなり人口もありますし、このつながりというのは、地区として大きいので少し輪を広げてもいいのではないかなと思います。その辺もひとつ感じた点

です。輪を広げるというのは、相手も地域全体として考えればかなり大きな世帯ですから、加瀬木ふれあい会に限定せずに一定の広がりをもって取り組まれたら。向こうは面影地区の公民館が拠点だと思いますが、加瀬木の地域なり、もっと少し広がっての地域で対応できるのではないか。

それから、ログハウスなどの拠点もつくられて、我々はよく市民農園と言っていますが、むしろ市民農園という言葉よりは、やっぱり佐治の特色のある畑のオーナーというか、そういう畑のオーナー制度みたいな形でどんどん借りて使っていただいて、これは有料になっているのでしょ、きっと。

（加瀬木ふれあい会会長）
若干の管理料程度。

（竹内市長）
そうですか。私も民間の市民農園を借りて使っていたことがありますが、年間幾らだったかな。８，０００円とかそんな値段だったような気がするのですが、５，０００円以上ですか。

（加瀬木ふれあい会会長）
年間で一応、１，０００円。　畳２畳分なので。

（竹内市長）
一坪地主になれるわけですよね。１，０００円はかなり安いかなと思いますが。いずれにしても楽しんで何回も来てもらうという方法として、交流の一つの方法としてとてもいいのではないかと思いました。

この加瀬木ふれあい会は加瀬木の村ほとんど全部が入っておられるのですかね。かなり大きな村のまとまりであるわけですから、ぜひこれからも輪を広げるということも含めて継続、発展をしていっていただきたいなと思います。

それから、面影の公民館に行ってこちらの農産物の展示即売のときは、「５しの歌」のＣＤでもかけて、ムードをつくってみんなに買う気持ちを高めてもらうといいのかもしれませんね。バックグラウンドミュージックをぜひかけてもらうといいのではないかなと思います。

６　地域の課題についての市長等との意見交換

保育園統合について

佐治地区には保育園が２園あります。「ひまわり保育園」は民間工場を改修して昭和５２年１０月に建設したものであり、一方「ふたば保育園」は借地に昭和５６年２月に建設しています。いずれも３０年以上たち老朽化が目立ち大規模な改修の時期も迫っています。園児数の減少もあり佐治地区としては保育園を早く統合し、佐治中学校跡地に木の温もりのある保育園を新築していただきたいと考えています。

＜担当部局の所見等＞
【健康子育て推進局】
　できるだけ早急に、ひまわり保育園、ふたば保育園を統合し、佐治中学校跡地に新園舎を建設したいと考えています。
　新園舎は、木造平屋建てとし、調乳室、ほふく室等を備えた０歳児から受入可能な、施設とする予定です。
　また、子育て支援センターを併設し、現在ひまわり保育園で実施している子育て支援も継続して実施します。

（支所長）
　この件については、７月２６日に２園にあります保護者会より、統合に関する要望書が市に出されました。同時に、佐治地域審議会にも協力の要請がありました。地域審議会では区長会等で意見を伺い、協議、審議の結果、保育園のあり方、学校用地の利活用についてということで８月３０日に意見書が提出されているところです。

（福祉保健部長）
　地図にもありますように、ひまわり保育園と上手の方にふたば保育園の２園があります。これに関しては、できるだけ早急に統合をして、建設用地としては佐治中学校跡地に新園舎を建設いたしたいと考えています。新園舎は木造平家建ての構造で考えています。部屋としましては調乳室、調乳室と申しますのはミルクをやることができるように湯沸かし器を備えた個別の部屋、それからほふく室、これは０歳の子どもがはいはいできるような畳の部屋を設けるなど、０歳児からの受け入れ可能な施設としたいと考えています。

　また、いまもひまわり保育園の方で子育て支援センターをやっていますので、こういったものを併設したものを実施したいという考え方でいます。

（地元意見）
　保育園の統合については、園児の数が減少していて、子どもたちの数が少ない中で保育環境がどうかなというところで、ふたば保育園の保護者の中には、「できればふたば保育園を残してそこで保育をしてもらいたいが、やむを得ず統合に参加する」という意見もありました。と申しますのも、統合した場合、新園舎が佐治中学校の場所になることによって、特に上手の部落からは、子どもにとっても親にとっても通園が負担になります。例え

ば通園バスとか、そういうことはできないだろうかという要望も出しましたが、それは難しいということです。だからといってこの統合に対してもう一度それを白紙に戻したいということはできませんので、子どものために佐治に１つ保育園を残すという大義のために、やむを得ず賛成してもらっている状態です。

通園の問題は、通園に不便をこうむる保護者のかただけでなく、今後、特に上手の方の部落で、これから結婚して子育てをしたいというかたにとっても残ってくるのではないかと考えています。特に、現在ふたば保育園に通っている保護者のかた、上手の方の部落のかたですが、そういった若い子育て世代のかたのために、例えば小・中学校の児童が補助でバス通学できるのと同じかたちをもって、保育園においても園児が公共のバスを利用する場合、通園時のバスの補助金が出ないだろうかとか、あるいはもしそういうことが難しいようであれば、保護者の間で協力して送り迎えをする場合に、何かしら行政の方から補助が出ないだろうかという考えもしているところです。

今回、佐治に１つ保育園を残したいということで統合に全員賛同ということで進んでいきますが、現実として不便をこうむるかたはいらっしゃるわけで、これから上手で不便の中で子育てをしていくというかたに対して、何かしら子育ての支援をお考えいただきたいと思っています。

（福祉保健部長）

確かに統合ということで、保護者会といろいろ話をしてきている中でも、下手のひまわり園とふたば園のちょうど中間はどうだろうかなという話もありました。現在のところを離れると、どちらかが近い遠いといった問題は生じる状況です。保護者会ともお話をしてくる中で、ある程度、この上の地域におられるかたは通勤途上で保育所に預けることは可能だろう、やはり上にあがってくるようになると通勤経路からいって少し時間がかかってしまうので、上手の方はやはり難しいのだろうなという話し合いもこれまでさせていただきました。鳥取市は、通園用のバスは準備をしていませんで、基本として保護者のかたが連れてきて預けられる。そうなると大概皆さん車で来られる。お一人のかたは免許がなくては送ることができないということで、免許も取られたという話も聞いています。現在の佐治中学校跡地に園舎を新しく建てて、そこまでは何とか連れてきていただければという格好で考えています。

（地元意見）

免許を持っておられなかったかたは免許を取られて、現在は自分の車で送り迎えされているのですが、今後、入園されるかたで同じように免許を持っていらっしゃらないかたもいると聞いています。まだ入園されていませんが、そのかたも免許を取っても、取りたてでは雪道に慣れないので冬場は送り迎えが難しいでしょうし、そのかた以外にも冬場は車の運転は自信がないというかたもいらっしゃいます。いま現在は免許を取られたので送り迎えはできますが、将来的に可能性としてそういうことがあるので、そのあたり何かいい知恵がないでしょうか。

（福祉保健部長）

将来的に少しご心配ということで、ちょっといま、私ども頭の中に準備をようしていない段階です。今後の検討という形にさせていただくわけにはいきませんでしょうか。

（地元意見）

いますぐにということではありませんが、そういう潜在的なニーズがあるということを思っていただいて、今後、上手の子育ての支援の一つとしてそういうこともあるということを考えていただけたらと思います。

それで、ちょっと話は変わります。私は梨をしているのですが、いま、Ｉターンですとか Ｕターンで、特にＩターンで鳥取県にゆかりのないかたが、私のところにもちょくちょく、年に２組ぐらいは話を聞きに来られます。そのときに、子育てがとてもしやすいよと話します。私はふたば保育園から歩いて５分もかからないようなところに住んでいますので、通園のときには散歩がてら、子どもを肩車しながら送ったり迎えに行ったりしていますよと、そういう話をしますと、Ｉターンを念頭に置いておられるようなかたは、とてもすばらしいところだな、こんなところで子育てをしたいとおっしゃいます。今回ひとつ売りが減ってしまうわけです。統合自体に関してはもう場所も決まっていますし、賛同ですが、奥において子育てをしても負担を軽くできるような、例えば公共バス利用でもいいと思いますが、そういう支援策があって、そういう話ができたらＩターンの人も少しはいいかなという思いもあります。今回、特にふたば保育園に通っていらっしゃる上手のかたは不便がまた増すということで、それだったら用瀬に出てしまおうとか、そういうことになってしまうのでないかなと。私の個人的な想像ですので違うのかもしれませんが、中学校も用瀬と統合してしまうし、そうすると佐治の人口流出がどんどん進んでしまうので。

佐治に保育園を１つ残すというための統合なのですが、それは人口が減らないための統合であってほしいと思います。より充実した統合になれば言うことはありませんので、よろしくお願いします。

（竹内市長）

統合について、それをめぐるご意見をいただきました。ご夫婦でお目にかかったことありますね。ふたば保育園で歩いて５分のところにお住まいだというところまでは、ちょっと思い浮かばなかったのですが、いろいろお話をありがとうございました。

まず、通園バスという制度は、市内の保育園でそういうことをやってきていないこともあって、非常に抵抗が大きい部分ですし、本当に小さい子どもには公共のバス利用は難しいのでしょうが、公共交通機関を小・中学校の子どもたちもできるだけ利用してほしいということで進めているので、公共交通機関の利用ということからも通園のバスというのとは少し難しいと思います。

お話の中で幾つかの提案もされています。新しい保育園ができたら、この保育園に、ほかの保育園に預けているお子さんがたも来られたり、だんだん増えてきたりと状況がいろいろに変わってくる部分もあろうかと思います。また、保護者の皆さんが協力して送迎するという話も出ていましたが、そういうことも具体的にどのようになってくるか、いまの時点ではなかなか想像できませんし、我々も計算できませんが、そういったことがいろいろ進む中でいろんな考え方が出てくるのではないでしょうか。例えば、過疎地有償運送と

いう制度もあります。公共のバス以外で、大体ワンボックスの小さな車で、ＮＰＯ法人などの形、あるいは既存の組織でもいいのですが、自分たちのある種の事業として子どもの送迎をやってあげるというところが出てくるということも考えられます。

いずれにしても、市の直営の通園バスはなかなか難しい中で、どんな方策があるのか、いろんな選択肢がある例も挙げられましたし、今後の状況の中で引き続きこれからの検討課題という言い方を部長もしていましたが、新しい状況を見きわめていく中で、先ほどの話ではないですが、こういうふうにしたら圧倒的に便利になるとか園児が増えるとか、いま少し話されたわけですが、人口がＵターン、Ｉターンで増えてくると、そういうことにつながるということになれば、また政策的に考えていくということもあると思います。距離が何ｋｍありますかね、６ｋｍくらいですか。便利でそして安全で、そして新しい設備が整った施設ができるというプラスも考えていただいて、統合には賛成いただいていると思いますが、これからの推移の中でいろいろ考える余地はないのかというのがいまの私の気持ちです。どういう具体の形が出てくるのか。園児も増えて通学についての支援さえあればもっとたくさんのかたが、新しい佐治の保育園に確保できるとか、定住が増えるとか、そういうこととの兼ね合いも考えてみたいと思います。引き続きの検討課題ということで、きょうのところは、今後の状況も見きわめながらということで答えにさせていただきたいと思います。

（地元意見）

保育園の統合について、中学校跡地にされるのは僕は非常にいいことだと思っています。それで、位置はどの辺にされるのでしょうか、もう決まっているのでしょうか。といいますのは、中学校の全体の跡地利用がまだ決まってないと思いますので、僕はいまある中学校の校舎の下の部分の棟ですね、一番危険とされている棟を優先的に撤去していただいて、そこに立派な保育園をつくっていただきたいという夢があります。どの辺につくられるのか、もし決まっていましたら教えていただけませんでしょうか。

（福祉保健部長）

決定というわけではないですが、いま、部で場所として考えているのは、校舎と、それから右手の下の方にプールがあります。プールと校舎との間ぐらいの、いま空いている土地を利用しようというところです。建物でも、玄関から左手は耐震度が弱いですが、校舎でも右向きの建物の方は少し耐震度があるということですので、校舎とそれからプール、その間の敷地で影響のないところを選択しようかと考えています。

（地元意見）

グラウンドの野球のバックネット、あの辺も入っての話でしょうか。

（福祉保健部長）

細かいところまではまだ設計ができていませんが、バックネットよりも少し駐車場側の方といいますか。

（地元意見）
テニスコートの辺でしょうかね。

（福祉保健部長）
ええ、その辺です。

（地元意見）
僕が危惧しているのは、古市橋が４．３％ぐらいの勾配で道路整備の計画が入っていまして、体育館の下から入るような進入路がなかなか許可がおりないのではないかと思っているのです。そうしますと、上手のグラウンドを通って下の方に出る、あるいは体育館と危険な校舎の軒下を通っていく以外に正面進入路がとれないと思うのです。したがいまして、危険校舎の棟のところを全部砕いていただきまして、保育園を重点的に配置するということで、でんっとそこにいいのを建てていただきたいと思っています。プールももちろん危険ですからいけませんし、つぶして立派なものを建てていただきたいというのが私の希望でありまして、位置については、正直なところ正門の進入路がとれないのではないかと僕は危惧しています。まず校舎をつぶしていただいて、そこから入るようなことを検討していただきたいと僕は感じています。

（福祉保健部長）
校舎を壊すのも経費がかかります。プールも経費がかかるので、現在のところは考えていません。先ほど危険な箇所の軒下を通っていくという、そういったことまでは現在考えていません。体育館の右手の方のその辺の中で入っていけるような方法を考えたいと思います。

（地元意見）
よく検討してみてください。ちょっとえらいような感じがしますので。

（支所長）
設計はまだできていないという状況ですので、ご意見はお聞きして参考にさせていただくということで。

７　市政の課題についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）
市道南岸線の早期開通についてですが、先ほど保育園が整備され、そして保育園の保護者会長さんが言っておられるように通園距離も長くなるということです。懸案の南岸線、大井地区の開通が早まることによって、特に奥部の住民にとっては通勤、通学、それから先ほどの通園も含めてかなり短距離になってくるということで、強力に南岸線早期開通をお願いしたい。

（都市整備部次長）

市道南岸線は用地取得困難者に対する任意の交渉と並行しまして、平成２２年度から土地収用法に基づく国道のバイパスとして事業認定の協議を国と行ってまいりました。しかし、最終的に国から国道バイパスでは事業認定を許可できないと言われましたので、県と協議をして、県の現在やっています過疎代行を廃止して、市道南岸線で整備する方向に転換となりました。現在、県と市で数回にわたって協議を重ねていまして、市道として事業認定の申請を行うとともに、引き続き県の協力のもとで任意交渉も並行して継続して行うことにしているところです。したがいまして、事業認定の手続がスムーズにできたとしましても、完成年度は平成２８年度になると考えているところです。

（地元意見）

要望事項として支所長と館長にお渡ししました。検討をしていただきたいと思うのですが、佐治というところはたしか明治４０何年に中とこっちと奥とが合併して佐治村になったわけですが、以来９４年間どことも合併せずに運営してきたところです。それで、公文書館を佐治につくっていただきたい。かなり貴重な史料が眠っているのではないかと思っています。ですから、中学校の、なるべく湿気を持たない３階あたりに公文書を全部持ってきて、近現代史の研究センターみたいなものをつくっていただきたいと思います。随分大きな話をしますが、これからは必要なことではないかと思いますので、ぜひ検討をしてみていただきたいと思います。

（竹内市長）

既に要望事項として支所長のところに届いているということですので、しっかり拝見したいと思いますが、要は公文書館をつくろうと。つくるべきだというか、つくる必要がある、佐治中学校のしっかりした校舎の中にこれを開設したらどうかと。現在も公文書をかなりこっちの方ですか、保存しているということで、近現代の歴史を語るいい史料になっているはずだということです。おっしゃるとおりだと私は思います。

公文書館については、かねて鳥取市が市町村合併したときもそういう声が出ていまして、我々も保存に努力しなければいけないと言ってまいりました。駅南庁舎の地下のところがかなり多かったと思いますが、現在もかなりの量を集めています。それでもまだそれぞれの総合支所に残っている分もあるようです。ですので、貴重な史料が散逸しないようにどう考えるか、全市的なものにするのか佐治の公文書を集めたものにするのか、それも含めていろいろ検討の余地があると思います。かねて佐治の佐治川石の展示などについても、もとは総合支所の裏の議会があった建物にあったのですが、中央公民館に移したとか何とかいろいろあります。佐治の歴史やいろんなものを展示するような、そして公文書を保存するような、そういった活用も十分考えられる案だと思いますので、今後、地元と市の方と一緒になって検討するひとつの提案として受けとめさせていただきたいと思います。

＜補足：総務課＞

佐治町総合支所に保存されている合併前の公文書については、現在、保存簿冊の拾い出しを行っているところであり、拾い出し終了後に、保存文書を現用文書・歴史的文化価値を有すると認められる文書（歴史的文書）・廃棄対象文書の３種類に分類する予定として

います。
　歴史的文書については、現用文書とは別の場所に保存することを考えていますが、すべての支所にある歴史的文書を公文書館的な施設に集めて保存するのか、あるいは、それぞれの支所で保存していくのかについては、各総合支所や地元のかたの意見を聴きながら決めていきたいと思います。

（地元意見）
　１０月から新交通体制ということで、バスが用瀬までということになっています。用瀬駅と新しいバス発着場を結ぶ跨線橋というか、線路をまたがる構想の進捗ぐあいを、ターミナルの建物を含めて教えていただきたい。

（都市整備部次長）
　現在、ＪＲのコンサルに委託をして設計している最中ですが、設計に当たってバスの乗り継ぎ拠点の場所が確定するのにちょっと時間がかかりました。つい最近、地権者のかたと用地買収の協議が調いまして場所が確定しましたので、これからその場所と正規の場所との実際、どの位置にするかという計画を立てて設計をするところです。

（地元意見）
　国道４８２号から用瀬インターに通ずる道路の、ひいな橋の下の方の山のところ、あそこは朝の７時から８時まで交通規制になっていまして、通勤の自動車が全然通れない状態ですので、これを一刻も早く整備していただきたいということです。聞くところによりますと２４、２５年度でするということですが、なるべく早くしていただきたい。あそこは４８２号と用瀬インターとを接続するアクセス道路ですから、一刻も早くしていただきたいと思っています。
　それから、以前そこはトンネルを掘って通ずるようなことで、上の方は国の方が町有地を、町の建物を買収されて河川敷になっていると思っていますし、それから下の方も市道用地として購入される、山の下手側ですね、そんなことを聞いているのですが、その構想はなくなったのでしょうか、あわせてお聞きしたいと思っています。

（都市整備部次長）
　国道４８２号と用瀬インターの間の、多分お話は別府美成護岸線のことだと思います。流しびなの館の横に出てくる道の……。

（地元意見）
　張り出し歩道を計画された。

（都市整備部次長）
　そうです。途中までいま、南工事事務所が中心となって工事をしていまして、残りの区間も今年工事を出すようにしています。設計としてはトンネルと言われたのも多分この場所だと思いますが、トンネルではなくて千代川の方に国土交通省の許可をいただき、張り

出しという形で道路を広げる計画にしているところです。

（地元意見）
あそこはもう残土を入れられるところは用地買収済みになって、それから山の下手側の方は市道用地で一部買収されるということを聞いているのですが、その辺でもともとトンネル計画というのはなかったのでしょうか、あったのでしょうか。

（都市整備部次長）
そのトンネル計画というのを承知してないもので、どうなったかというのは、また詳しく調べて回答させていただきたいと思います。

＜補足：都市企画課＞
トンネル整備について国交省に確認したところ、千代川の河川断面は、１００年に１回の流量を想定した断面に対応するため、平成７、１３～１４年度に千代川用瀬地区整備に関する委員会と①トンネル整備案②山切り案の２案について協議し、景観に配慮した構造であるトンネル案が採用されたとのことです。
しかしながら、当面の目標として戦後最大雨量を想定した「千代川水系河川整備計画」を平成１９年５月に策定し、それに基づき整備を行なっており、現時点でトンネル整備は目途が立たない状況とのことです。

（地元意見）
ちょうど通勤時間に利用できないというのが一番のネックでして、せっかく用瀬インターができても、鳥取自動車道ができても４８２号、佐治の方からは利用が非常に不便になっています、現在。

（地元意見）
先ほどの南岸線の開通も含めてですが、一昨日ですか、かみんぐのところで電柱が倒れかかって、それで結局、迂回をせざるを得なかったと。それから、去年の台風１２号、１５号に伴いまして、下の万蔵地区、そこも大水の土砂崩落によって不通になってしまったと。台風１２号、１５号も森坪の集落の下手側も崩落して不通になりかけた。交互通行によって何とか切り抜けさせてもらったのですが、先ほどの大井地区内の不通によって不便を生じているということで、いま一度、強力に大井地区の南岸線早期開通を求めたいと存じます。

８　市長あいさつ
万蔵の方の災害復旧の早期という話がありました。大変ご心配とご苦労をおかけしている事業でありまして、災害復旧については慎重に、これは発生したのは去年の９月３日ですが、その後、通行止めになっていまして、工事の説明会は７月ぐらいに行って、既に工事は発注しています。ということで、できるだけ早く完成したいわけですが、上の方から工事を始めて、そしてさらに市道の部分に、両方とも市道ですが、林道的な上の道路と下

の道路と両方にまたがる工事の完成に取り組んでいます。年度内完成ということで工期的には聞いていますので、我々も早い開通を願って、取り組んでまいります。南岸線は地権者の協力が得られないと早くできないというのが、まことに残念です。皆さんの声を大きくしていただいて、地権者のかたの協力を早期に得られるようにしていただくことが一番重要ではないかと。皆さんよくわかった上でご質問やご要望をされているので、我々がこれ以上言うといけないかもしれませんが、地権者は地元のかたでしょう。地元の中での意思疎通で何とかならないものでしょうかね。あまり深くは言いませんが、やはり協力いただいた多くの地権者のかたもありますので、道路が早く開通していろんな地域の課題に対しても大きなプラスがあるように私も強く願っていますし、取り組んでいきたいと思います。

それから別府のところ、用瀬町地域になりますが、開通についても私は県の方にしつこく言ってお願いしていますし、用地買収に関しては佐治と用瀬の両地域の支所長さんも代々のかたが力を入れてこられたということで、大体見通しがつく段階になったわけです。仮にも国道でありまして、狭隘な道路のままで置いておくわけにはいきません。そういう位置づけのある道路ですし、鳥取自動車道ができて一層重要性が増しているので、開通が急がれるのが４８２号です。完全に拡幅ができるように、また全体として路線の安全性が確保できるように、これからもしっかり取り組んでいきたいと思います。

ところで、２００円均一になった地域内の循環バスに対する感想はどうかなと思ったりするのですが。以前に比べて負担は軽くなっていると思っていますし、それから利便性が高まったのではないかと思います。鳥取駅まで出るに当たっては乗り継ぎが必要だということで、乗り継ぎ拠点を鉄道にもつながるように、そしてバス相互にもつながるようにいろいろ工夫しようという当初の計画なのですが、遅れている部分も間に合わせるようにしたいと取り組んでいます。きょうは地域審議会の会長さんもお見えです。バスを一番よく利用されているかたのお一人だと思っています。どうなのでしょうか、後で一言教えてほしいなと思っていたのですが、佐治町の皆さんのバス利用者を代表して、いかがでしょうか。

あと、いろいろお話ししたいこともたくさんあります。いま、忙しくして私自身がなかなか佐治に多く来ていませんが、新しい動きはいろいろあるわけですね、中学校、保育園、それから道路の災害復旧と。ですので、またたびたび伺って、できるだけ皆さんといろんな形でお話をしたりしていきたいと思います。私は常日ごろ中山間地域対策の取り組みがいろいろになされている、地域の皆さんが力を入れておられると思っているわけです。梨シャーベットのことなども、また単一商品ではなかなか難しいので、複数商品化をできないのかなとか、いまでも気にかけながら、どんどん発展するように願っています。先ほどの保育園の統合に伴ういろいろな、また新しい知恵もないのかなということも、きょうの話で課題意識を持ちましたので、また佐治の方に参りましていろいろなかたとお話をしていきたいと思います。

なお、いろいろ提案がありましたら、市長への手紙という制度があります。便せんのような紙１枚に書いて封筒に入れて、受取人払いでちゃんと鳥取市で受け取って対応をさせていただいています。匿名でも受け付けてはいますが、住所、氏名を書いていただきましたら、必ず返事をしています。きょうまだまだお話があるかたもご意見のあるかたも、提

案をお聞かせいただければと思います。
　最後は締めくくりも含めて、地域審議会会長さんに一言お願いしたいのですが。

（地域審議会会長）
　実態がまだわかりませんので評価はできないところですが、やはり乗り継ぎがいままでしていなかったもので、そっちの方のご意見はあります。それはそれとして、やはりバスが通らないということがないような施策をしてほしいなと、お願いしておきたいと思います。私は乗る方かもしれませんが、今後とも、交通網ですのでそれを思います。それから津無と津野、あの路線のことは全然、いまどういう利用になっているのか私はわかりませんので、ちょっと申し上げられないというところです。
　いろいろ手直しをしながらやっていただけると思っています。いまは試しの１年間ですので、これからだと思いますが、全然通らないということのないようにはぜひお願いしたいと思います。